

1. 一般質問

令和5年 第4回定例会

次の6項目について、一般質問しましたので、主な内容を報告します。

1) ドローンの有効活用について

本年5月には、被災状況調査や捜索等を実施して頂ける事業者と、「災害時等におけるドローンによる支援活動に関する協定」を締結されました。危機管理の観点から、私の方でも、防災協定締結の必要性を提言して参りましたので、この取り組みを高く評価します。災害はいつ起こるか分かりませんので、有事に備え、ドローン事業者と共に、平時における実践的な訓練を展開するよう、要望しました。

一方、消防本部においても、独自でドローンを活用し、様々な活動を展開されています。今回、防災協定を結ばれたことを契機に方針を見直されていますが、協定範囲を超えた活動の必要性があることが考えられますので、適宜、実態にあった協定内容にブラッシュアップするよう、また、ドローンの操縦資格取得はいざという時の強みとなる為、引き続き検討するよう、要望しました。

【市の見解】

ドローンは、広範囲にわたる活動を少人数で効率的に行える為、この特徴を活かして、被災状況の把握や行方不明者の捜索等、災害応急対策活動に活用できると考えています。ドローン事業者との訓練につきましても、ドローン事業者を含めた関係機関にも参画頂くなど、具体的な訓練内容を検討して参ります。



2) ファシリティマネジメントについて

ファシリティマネジメント、いわゆるFMとは、日本語に直訳すると、「施設管理」となりますが、本質的な意味合いは、むしろ「経営」の意味合いが強いものと私は認識しています。施設管理とFMとの一番大きな違いは、その目的であり、FMは施設運営の効率化を目的としています。

これから、鳥飼小学校と鳥飼東小学校の統合も控えており、鳥飼グランドデザインも具現化されて行く中で、施設の再編は必須であり、実質的に関わって行くよう、要望しました。

ファシリティマネジメントは、目先のコストだけでなく、将来のことやそこで働く職員のことなどを見据えた上で、ファシリティの長期的な最適化を図ることであると言えます。

本市においても、経営的な観点から統括的なファシリティマネジメント戦略を策定する必要性があり、部局横断の枠組みで、本質的なファシリティマネジメントを展開するよう、要望しました。

【市の見解】

ファシリティマネジメントとは、経営的な視点から設備投資や管理運営を行うことにより、施設に係る経費の最小化や施設効用の最大化を図ろうとする総合的な経営管理活動と認識しています。これからは、施設管理と施設再編のP D C Aサイクルの進行管理を行って参ります。



3) 摂津ブランドの更なる構築について

本市のブランドの一つとして、商品認定の「摂津優品」「摂津優技」が挙げられます。

本年度は「摂津優技」に2社が認定されましたが、本市は、これまで一般消費者向けを認定しており、企業向け商品、いわゆるB to Bという観点で、企業の匠の技にもスポットを当てるべきと私の方でも提言して参りましたので、この取り組みを高く評価します。

私は、色々な観点から更なるブランド構築に向け、推進すべきと考えます。その上で、摂津ブランドも含めた本市に秘めているポテンシャルを市内外に広く知ってもらい新たな可能性を見出す必要があると考えます。「摂津優技」で例を挙げますと、匠の技を広くPRすることで、市内外でのビジネスマッチングに繋げ、技術イノベーションを促進して行くという観点です。より一層本市の魅力を発信することを要望しました。

【市の見解】

これまで、摂津ブランドを市内外に発信したことで、「ものづくりのまち摂津」の認知が広がり、市のイメージアップに繋がっていると捉えています。これからは、市全体のブランドや魅力を網羅している&setts（あんどせつ）に磨きをかけ、既存の都市資源や代表的なブランドなどを広くPRして参ります。

